

学生が自律的に学習できる環境作りを目的とした 教材作成・授業提案 —初等英語科教育における ICT 活用教材作成を通して—

染谷 藤重・小川 一美*

Teaching Materials and Classroom Strategies for Fostering Autonomous Learning: Developing ICT-Based Resources for Elementary English Education

Fujishige SOMEYA and Kazumi OGAWA*

Accepted June 13, 2023

抄録：小学校における外国語の教科化、中高における外国語の高度化を受けて、大学での外国語に関する指導法の講義も大きく変革を求められている。コロナ禍も影響を与え、ICT やオンライン教材などが充実し、近年の教育は大きく変わることとなった。本稿では、学生の自律的な動機づけ及び授業や学習へのエンゲージメントを高める為に、どのような教材が必要とされるか、また、ICT 環境をどのように充実させていくかについて、具体的な ICT 教材の作成及び実践案について論じることで指針を示していく。

索引語：ICT 教材、動機づけ、エンゲージメント

Abstract: As foreign language education becomes a core subject in elementary schools and progresses to more advanced levels in middle and high schools, university courses on language instruction must undergo significant changes. Moreover, the COVID-19 pandemic has accelerated the adoption of ICT and online teaching materials, leading to substantial educational transformations in recent years. In this paper, we present guidelines for creating the necessary teaching materials and enhancing the ICT environment to promote students' self-motivation and engagement in the teaching and learning process. Specific ICT teaching materials and practical ideas are discussed to provide a roadmap for achieving these goals.

Key Words: ICT materials, motivation, engagement

* 京都教育大学教育学部・非常勤講師

1. はじめに

2020 年度からの小学校英語の高学年からの教科化（文部科学省，2017a）及び中学校英語の高度化（文部科学省，2017b）を受けて、大学（特に、教員養成大学）の英語教育は大きく変わってきた。外国語（英語）の教科化によって、教員養成大学では、小学校教諭 1 種免許状を取得するためには、「小学校外国語指導法」に関する科目が必修とされ、各大学において小学校外国語指導法に関する科目が開講されている。

現在、小学校現場では、中学年及び高学年において外国語活動及び外国語の授業が行われているが、大学において小学校外国語に関する講義を受けたことがなかった教員も多く、学校現場では混乱が多く見られる。また、評価観点の変更なども合わさって、学校現場では混乱が増している状況である。

上記の背景を含めて考えても、小学校で外国語を教えることのできる教員の養成は急務であると考え。特に、理論的な面だけでなく、実践的な内容をきちんと理解し、児童の実態に合わせた外国語の授業づくり及び運営ができる教員の育成は重要である。

現状、大学においては、外国語の指導法の必修としての科目は 2 単位 1 科目しかないのが現状である。英語に関わる学生は、他の英語教育に関する指導法の科目などの受講も考えられるが、他の領域の学生はなかなかそのような科目の受講まで至らないのが実際のところであると考え。従って、筆者達のような教員養成大学の教員は、この「小学校外国語指導法」の科目の中で、最低限の時間内で、理論的・実践的なことを教えて行かなければならない。そこで、筆者らは、どのような教材があれば学生達が自律的に理論的な背景を踏まえて、実践的な内容を学んでいけるかという視点を持ち、本研究における教材作成、及び授業提案を試みた。

ゆえに、本稿の目的は、学生が理論的な背景を踏まえて、自律的に小学校外国語の実践的な内容を学んでいけるような教材を、ICT 環境を用いて作成することにある。特に、現状、小学校外国語に関して、実際にどのように指導すれば良いのかを動画として配信している教材はほとんどない。

Youtube などに文部科学省や教育委員会などが中心となって授業動画をアップロードしているが、それらを教材として用いるには、焦点化されておらず、学生が自律的に学習していくためにはまだまだ不十分な点が多い。これらの現状を踏まえて、学生の自律的学習及び学習へのエンゲージメントを高めることのできる教材作成を試み、授業でどのように用いるかについて言及する。

2. 背景

まず、どのような視点を持ち教材作成を行えば、学生が自律的に学習を行い、授業や小学校外国語の指導法へのエンゲージメントを高めることができるかを理論的背景から概観する。

(1) 動機づけとは何か？

心理学的に「動機づけ (Motivation)」とは行動や心の活動を、開始し、方向づけ、持続し、

調整する、心理的なプロセスである（上淵，2012）。本稿では、この動機づけに関して、教育心理学的観点から「自己決定理論」の枠組みを用いて概観する。

1) 自己決定理論

自己決定理論とは Deci and Ryan（1985）により提唱されたものであり「成長と統合に向かう自己の傾向性および、より統合された自己の感覚を発達させていく傾向性を生得的に備えているという生命論的視座に立脚した動機づけの考え方」（鹿毛，2013，pp.182–183）であるとされる。この理論には、現在 6 つの下位理論が存在するとされ、その中で「土台」として位置づけられている考え方が基本的心理欲求理論である（Ryan & Deci, 2017）。

2) 基本的心理欲求理論

「基本的心理欲求理論（Basic Psychological Needs Theory）」とは自律性（Autonomy）、有能性（Competence）、関係性（Relatedness）の欲求充足が、内発的動機づけの促進、人間の成長、統合的な発達、ウェル・ビーイング（Well-being）のために不可欠であるという考え方である（Ryan & Deci, 2017）。

染谷（2020）は、鹿毛（2013, p. 184）及び廣森（2006, p. 13）をもとに、英語教育における 3 つの心理的欲求充足に関して、次のように言及している。

- ・自律性の欲求充足：行為を自ら起こそうという傾向性を指し、学習者が自律的に英語学習に取り組みたいと感ずること
- ・有能性の欲求充足：環境と効果的に関わりながら学んでいこうとする傾向性を指し、学習者が英語ができるようになりたい、あるいは英語の授業内容を理解したいと感ずること
- ・関係性の欲求充足：他者やコミュニティと関わろうとする傾向性を指し、学習者が教師や仲間と互いに協力的に英語学習に取り組みたいと感ずること

上記の 3 欲求の充足が以下のエンゲージメントの促進を促すことが明らかになっている（Skinner et al., 2009；染谷，2021a, b, 2022, a, b；Someya & Obermeier, 2023）。

(2) エンゲージメントとは何か？

学習者の成果としての「エンゲージメント（Engagement）」とは「心理的没入」と表現でき、興味や楽しさを感じながら気持ちを集中させ、注意を課題に向けて維持するような「熱中」する心理状態である（鹿毛，2013）。エンゲージメントは「行動的エンゲージメント」「感情的エンゲージメント」「認知的エンゲージメント」及び「行為主体的エンゲージメント」に分かれているとされる（Reeve, 2018）。「行動的エンゲージメント」とは授業をはじめ、学習場面や学習課題における関与、努力や持続性、忍耐を含む概念とされる（梅本ら，2016）。「感情的エンゲージメント」とは興味、退屈、不安、楽しさといった学習者の感情的反応に関する概念とされる（梅本ら，2016）。さらに、「認知的エンゲージメント」とは洗練された深い学習方略（精緻化など）の使用や、自己調整方略（プランニングなど）の使用といった認知的な参加における概念であるとされる（Reeve, 2018）。最後に、「行為主体的エンゲージメント」とは、学生の学習、スキル発達、及び教室内でのパフォーマンスを予測するものであると言及され、学業場面において「学生始動の」「先を見通す」「意図的な」「教員と共同する」そして「建設的な」行動を最も表現できる概念であるといわれている（Reeve, 2016）。

(2) 動機づけとエンゲージメントの関連性

本稿では、自己決定理論の観点から、動機づけとエンゲージメントの関係性を考えていく。

多くの研究 (e.g. Reeve, 2018 ; Ryan & Deci, 2017) によって、基本的心理欲求の充足がエンゲージメントを予測することについては明らかにされている。特に、染谷 (2021b) は、高校生を対象として調査研究を行い、3 欲求 (自律性・有能性・関係性) の充足がエンゲージメントを予測することを明らかにした。同様に、染谷 (2022a) は、大学生にアンケートを行うことによって、3 欲求とエンゲージメントの関連性について明らかにしている。

上記のように、3 欲求の充足を高めることは、授業やその学習へのエンゲージメントが高まることが示されている。エンゲージメントは、直接的に達成度や成績を予測する要因であることから、3 欲求の充足を高め、エンゲージメントを向上させることが授業の達成度や成績に正の影響を与える可能性があると考えられる。

3. 本研究の目的と教材作成の視点

(1) 本研究の目的

上記の背景と先行研究を踏まえて、本研究の目的は、学生の自律性・有能性・関係性の欲求を充足させ、学習へのエンゲージメントを高めることのできるような ICT を用いた教材の作成及びそれをどのように用いるかという授業提案を行うこととする。

(2) 心理的 3 欲求の充足を促す教材とは？

1) 自律性の欲求

自律性の欲求充足の観点から、自分で学習できるという環境を設定することが重要であると考えた。今までは、学習しようと思っても、自分の知りたいことがうまく見つけることができず、教材の選択の自由や自分のやりたいことを選べる環境が難しかったと考えられる。しかし、本稿で作成した ICT 教材は自分の興味関心のある部分や、自分が分かっていない部分などを中心に自主的に学習できるように教材の作成を進めた。具体的には、ICT 教材に取り組む時に、自身の取り組みやすいものから取り組むことができたり、自身の興味のあるものから取り組むことが出たりと学生の自己選択の幅を広げ、自律性の欲求充足を促すような工夫を行った。

2) 有能性の欲求

有能性の欲求充足の観点からは、学生が授業に失敗することを恐れないように、小学生に教えるための比較的簡単な英語を用いて授業動画を作成することで、学生が劣等感を感じるようになるように工夫を行った。また、今まで本格的な小学校外国語の授業を受けてこられず、自分自身がどのように授業を行って行くかに不安を抱えている学生も多くいると考え、できる限り具体的な内容を扱い、英語が専門の学生でなくとも練習すればできると感じるような、基本的な内容も含めて、スモールステップで小学校外国語の授業実践を理解していけるように工夫をした ICT 教材の作成を目指した。

3) 関係性の欲求

関係性の欲求の観点からは、協同的な学習の視点を取り入れることによって一人だけでやるのではなく、クラスメイトなどと協同して小学校外国語の授業実践を理解していけるような教材の作成を試みた。具体的に、授業の動画を一人で視聴して、その動画に関する考察を Google Forms などに打ち込ませ、授業内で共有する。そうして、それらの意見を授業内でグループワークなどで精査して行くことによって、協同的で深い学びになるように ICT 教材を工夫した。

(3) 第二言語習得研究を踏まえた教材作成

本研究で作成した教材には、子どもの第二言語習得論を踏まえた上で、効果的であると考えられる指導方法などを多く取り込んだ。特に、小学校外国語ではインプットからアウトプットへつないでいく過程が重要となるため、インプット仮説とインタラクション仮説に焦点をおいて教材の作成を試みた。

1) インプット仮説

Krashen (1985) は、インプット仮説を提唱している。ここで言うインプットとは、理解可能なインプットのことを指し、理解可能なインプットを十分に受けると言語習得が促進されるという仮説である。特に、 $i+1$ という理解可能なインプットが重要であるとされる。本研究で作成した ICT 教材では、小学生にとって、この理解可能なインプットがどのようなものであるか、また、どのようにしたら効果的に与えることができるかという視点を多く取り入れている。

2) インタラクション仮説

Long (1996) が提唱した仮説に、インタラクション仮説がある。Long は、インプットとアウトプットだけではなく、それらの間に存在するギャップを埋めることに着目して、インプットからアウトプットにつなげるには、意味交渉が重要であるとしてきた。

その点を踏まえて、本研究における ICT 教材には、教師がどのようにインプットするか、またどのように児童とインタラクションを取りながらインプットをアウトプットにつなげてくかという視点を多く盛り込んでいる。

4. 本研究で作成した ICT 教材について

本研究の ICT 教材を作成するに当たって、2022 年度に、第 1 筆者が担当した「初等英語科教育」という教科の指導法に関する科目の中で、実際に模擬授業を学生が行った内容を分析、考察し教材作成の指針とした。

(1) 学生の模擬授業の分析からの視点

2022 年 1 月～2 月において「初等英語科教育」の授業の中で、学生に模擬授業を行うという課題を提示した。学生は 4 人程度のグループで模擬授業を行った。

模擬授業で扱った内容は、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能 5 領域に関する事項と、4 技能 5 領域の技能統合的な領域であった。

上記の授業を分析考察して見てみると、共通して言えるのが、学生（教師役）の英語を使う

頻度の少なさ、理解可能なインプットの少なさ、音声インプットから発話の練習（ドリル）活動への移行がうまく行かないこと、歌やチャンツ、TPRなどの教材教具（デジタル教材も含む）が適切に用いることができないなどの問題点が浮上した。

上記の模擬授業の課題は、理論的な事柄は分かっているにもかかわらず、実際にどのように指導（授業）を行ったら良いのかが視覚的に理解できないということが関係していると考えられる。

（2）学生の模擬授業の分析からの視点

今回作成した ICT 教材の特徴は、小学校英語を専門とする教員が模擬授業を行い、そのビデオクリップを理論的な視点で考察することに着眼した教材であるということである。

特に、音声インプットを大事にして、発話につなげるインプットとはどのようなものか、インプットからドリル活動にどのようにつなげるか、アウトプット活動の前段階にどのようなプロセスを経るのかなどを中心にビデオクリップを作成した。

リーディング及びライティングにおいては、丁寧に読む活動をどのように行うのか、スモールステップで書く活動をどのようにして行うかなどに着眼点を置き、効果的な読み書きの指導とはどのようなものであるかを考えることができるように工夫してビデオクリップの作成を行った。

以下に、本研究によって作成したビデオクリップの特徴をまとめる（表 1、図 1）。下記の情報をもとに、各ビデオクリップに対していくつかの設問を作成し、学生の模擬授業や実際の授業で留意すべき点を明確にしようと試みた。

表 1. 作成したビデオクリップの特徴

名称	内容	4 技能 5 領域	学生への問い及び視点
Video Clip①	自己紹介・ Small Talk	リスニング	・この授業（活動）のどのような点が理解可能なインプットに当たるかを考察する。 ・デジタル教科書の動画を見せるときに授業でどのような点に注意すべきかを考える。
Video Clip②	Review(復習)	リスニング	・リスニング活動の前に、十分な Review をする理由は何かを考える ・教師はどのような工夫をすべきかを考える。
Video Clip③	ポインティング・ゲーム（良くない活動例）	リスニング	・この活動の良くない点を考察する。 ・具体的にどこをどのように改善すべきかを考える。
Video Clip④	ポインティング・ゲーム（良い活動例）	リスニング	・上記で考察した良くない点を踏まえて、どのようなポインティング・ゲームのやり方が、効果的について考える。
Video Clip⑤	ピクチャーカードを用いた語彙の導入	リスニング・スピーキング（やりとり）	・ピクチャーカードを用いて、語彙を導入するときに、どのように扱うべきかを考える。 ・児童とのやりとりを交えたインプットに関して考察する。

Video Clip⑥	スピーキング活動に入る前の下準備 ミッシング・ゲーム	リスニング・スピーキング (やりとり)	・ピクチャーカードを用いて、英文を導入するときにはどのように行うことが効果的かについて考察する。 ・ミッシング・ゲームを用いて飽きさせないインプット（ドリル）活動とはどのようなものかを考える。
Video Clip⑦	チャンツに入る前の復習	リスニング	・チャンツに入る前にどのように理解可能なインプットを与えるかについて考察する。
Video Clip⑧	チャンツの活動	リスニング	・どのようにチャンツを行って行けば良いのについて考える。
Video Clip⑨	Let's Talk への準備	リスニング スピーキング (やりとり)	・Let's Talk（スピーキング活動）への準備を行う。児童にどのようにしてスピーキング活動への導入を行えば、不安や劣等感を持たせずに活動に入れるかについて考察する。
Video Clip⑩	教科書を用いたリスニング活動	リスニング	・教科書のリスニング活動を行う上での注意点について考察する。 ・どのようにリスニングの活動を行えば良いかについて考える。
Video Clip⑪	読む活動	リスニング リーディング	・文字を読むためには、どのように導入すれば良いかを考える。 ・音と文字との関連性を意識した授業展開について考察する。
Video Clip⑫	書く活動	リスニング リーディング ライティング	・音と文字の関連性を考察した後、どのように書く活動に移行して行くかを考える。 ・スモールステップで書く活動をどのように行うかについて考察する。

図 1. Video Clip の例 (Video Clip ①)



ここからは、上記の ICT 教材をどのように、小学校外国語の指導法に関する科目で用いて行くことが効果的かを述べて行く。

今回作成した ICT 教材は、学部学生の模擬授業や教育実習の時の実際の授業での実践力を高めるために、使用するためのものである。したがって、理論的なことを教えずにこの教材からスタートしてしまった場合は、有効とは言えないと考える。まず、きちんとした小学校外国語の指導法に関する理論的な背景を学生にインプットしたあとに用いることが推奨されるであろう。

また、小学校外国語の教材や授業の組み立てなどの背景知識もなければ、このビデオクリップを見ても授業全体をイメージすることができないため、効果が薄くなってしまうと考えられる。

ゆえに、以下の表 2 に示すような順序で授業を展開することを提案する。

ここでのポイントは、学生の指導法に関する内容のインプットからアウトプットへの橋渡しとなるような使用の方法を推奨するということである。学生は、教科書や学習指導要領、教科書（教材）などを分析し、その理論的背景を前半で理解していると考えられる。しかし、模擬授業での分析考察から見てとれるように、模擬授業になるとその理論的な背景をうまく活用できていないように考えられる。したがって、実際に自分が授業する時のイメージを持ちやすく、どのように、今まで学んできた理論的背景を実践に落とし込むためのつながが必要であると考えられるだろう。

学生の自律性を促し、こうすればできるというような具体的な視点を持った有能感を持たせ、グループ活動などを通して協同的に関係性の欲求を満たして行くような授業展開を、この ICT 教材を用いて行うことができれば、学生の模擬授業の質の向上を促すと考えられる。そうすることで、授業へのエンゲージメントや教育実習やインターンシップなどでの授業などのエンゲージメントにつながり、その中で、成功していくことを通して、将来、小学校教員として外国語を教えて行く立場になったときに、恐れることなく外国語を教えることができる教員になっていくことができる可能性を秘めていると考える。

表 2. 本研究で作成したビデオクリップの使用場面

回数	内容	
第1回	導入	インプット を中心とし た授業内容 
第2回	外国語の指導法に関する理論的背景 (指導法や評価、カリキュラムなどの基本事項)	
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回	教科書（教材）やカリキュラム などの理解	
第9回		
第10回	本研究における ICT 教材	
第11回	(ビデオクリップを用いた学習)	

第12回	模擬授業など	アウトプットを中心とした授業内容
第13回		
第14回		

5. おわりに

本稿では、小学校英語の指導法の科目で、ICT教材をどのように作成していくべきか、どのように扱っていくべきかについて、動機づけ及びエンゲージメントの視点から考察した。

本稿で論じたことをもとにして、今後の小学校英語の指導法に関する科目の充実、そして、英語の授業が小学校できる教員の育成につながっていくことを期待する。今後、これらのICT教材を用いて、実際にどのような動機づけが生まれるか、エンゲージメントにつながるかなど実践的な研究が求められる。

参考文献

- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. Springer Science & Business Media. <https://doi.org/10.1007/978-1-4899-2271-7>
- Krashen, S. (1985). *The input hypothesis: Issues and implications*. Longman.
- Long, M. H. (1996). The role of the linguistic environment in second language acquisition. In W. C. Ritchie, & T. K. Bhatia (Eds.), *Handbook of language acquisition*. Academic Press.
- Reeve, J. (2016). Autonomy-supportive teaching: What it is, how to do it. In C. W. Liu, K. C. J. Wang, & R. M. Ryan. (Eds). *Building autonomous learners: Perspectives from research and practice using self-determination theory* (pp. 129–152). Springer Science + Business Media Singapore 2016.
- Reeve, J. (2018). *Understanding motivation and emotion* (7th edition). John Wiley & Sons, Inc.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2017). *Self-determination theory: Basic psychological needs in motivation, development, and wellness*. Guilford Press.
- Skinner, E. A., Kindermann, T. A., & Furrer, C. J. (2009). A motivational perspective on engagement and disaffection: Conceptualization and assessment of children's behavioral and emotional participation in academic activities in the classroom. *Educational and Psychological Measurement*, 69, 493–525.
- Someya, F., & Obermeier, A. (2023). Autonomy support, psychological needs satisfaction, academic engagement, and achievement in English learning: Generating a mediation model. *LET Kansai Chapter Collected Paper*, 21, 19–38.

- 上淵寿（編著）（2012）.『キーワード動機づけ心理学』金子書房.
- 梅本貴豊・伊藤崇達・田中健史朗（2016）.「調整方略，感情的及び行動的エンゲージメント，学業成果の関連」『心理学研究』87, 334–342.
- 鹿毛雅治（2013）.『学習意欲の理論 動機づけの教育心理学』金子書房.
- 染谷藤重（2020）.「高校生の英語における基本的欲求充足尺度の作成の予備調査—内発的動機づけに及ぼす影響—」『上越教育大学教職大学院研究紀要』第7巻，217–223.
- 染谷藤重（2021a）.「英語授業者の動機づけスタイルが学習者の内発的動機づけに及ぼす影響：自己決定理論を用いたアプローチ」『中部地区英語教育学会紀要』第50号，221–226.
- 染谷藤重（2021b）.「高校生の英語の授業への動機づけと英語学習へのエンゲージメントとの関連性の検証—SGH 指定校に関するケース・スタディー—」*JAFLE Bulletin*, 第24号，61–79.
- 染谷藤重（2022a）.「英語教師の自律性支援がエンゲージメントに及ぼす影響：中学校英語授業における心理的欲求を媒介として」『京都教育大学紀要』第141号，81–91.
- 染谷藤重（2022b）.「教師の動機づけスタイルがエンゲージメントに及ぼす影響：英語の授業における心理的欲求を媒介として」『中部地区英語教育学会紀要』第51号，33–40.
- 廣森友人（2006）.『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』多賀出版.
- 文部科学省（2017a）.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語・外国語活動編』開隆館出版.
- 文部科学省（2017b）.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』開隆館出版.

謝辞

本研究は、京都教育大学、教育改革・改善プロジェクト経費「初等・中等英語科教育における実践的な教員養成を行うための ICT 教材開発—体系化した英語授業動画データベースの充実を通して—」の支援によって行われた。

分担

第1筆者は主に本論文の執筆を行い、第2筆者は動画の作成を行なった。

付録

ビデオクリップの URL

タイトル	URL
Video Clip ①	https://www.youtube.com/watch?v=BqOdEdQp_QE
Video Clip ②	https://www.youtube.com/watch?v=rGNawNrqqGk
Video Clip ③	https://www.youtube.com/watch?v=gbXAekKwTl4
Video Clip ④	https://www.youtube.com/watch?v=B8WwqT0BDdY
Video Clip ⑤	https://www.youtube.com/watch?v=e_MqTXYxj7k
Video Clip ⑥	https://youtu.be/HvNQkk6mEH0
Video Clip ⑦	https://www.youtube.com/watch?v=r4rDn-M55ug
Video Clip ⑧	https://www.youtube.com/watch?v=62LVVgolhAw
Video Clip ⑨	https://www.youtube.com/watch?v=f3TkdgPLIGw
Video Clip ⑩	https://www.youtube.com/watch?v=BUB6yIz3uVo
Video Clip ⑪	https://www.youtube.com/watch?v=Yq-2q5B7__0
Video Clip ⑫	https://www.youtube.com/watch?v=iQ-U8x86F_Q

